

平成28年度 第1回江別市民健康づくり推進協議会 議事録要旨

【日時】平成28年7月11日（月）午後6時30分～

【場所】江別市保健センター 3階会議室

【出席委員】17名（笹浪会長、伊藤（洋）副会長、一色委員、菅原委員、高橋委員、中川委員、阿部委員、尾澤委員、山田委員、本山委員、武田委員、伊藤（亮）委員、中野委員、小林委員、鎌倉委員、細野委員、水谷委員）

【事務局員】13名（副市長、真屋部長、福島次長、小椋センター長、蓮田課長、佐藤参事、江川主査、竹内主査、赤石主査、児島主査、首藤係長、中村係長、佐々木主事）

【傍聴者】1名

【協議事項】

- (1) 平成27年度 保健事業・健康づくり推進事業報告
- (2) 平成28年度 保健事業・健康づくり推進事業計画
- (3) その他

(1)、(2)の質疑応答・意見等

笹浪会長：ホームページは閲覧した数などは分かるか

江川主査：調べればわかるが今すぐには数字が出てこない状況である。

水谷委員：E-リズムは高齢者にとって結構難しい。高齢者が一回では覚えられない。

赤石主査：イス編があり、そちらが簡単である。年二回まで団体に出向くことができ、地域で希望して連絡をすれば日程調整すれば行うことができる。

保健センターの方からインストラクターと保健師が向かう。

尾澤委員：資料2ページのこころの健康づくりについて、江別では自殺をする人がどのような原因か。

江川主査：中高年の男性の方が多い。最近では高齢者も増えてきている。一番多いのは健康に関する問題が理由となっている。

尾澤委員：生活習慣病の野菜がおいしくてたまらないというテーマで行ったが、実際はどういった内容だったのか

江川主査：昨年実施した食生活改善推進養成講座の一コマとして一般の方も参加できる講演会として保健センターで実施した市内で食育活動されて、小学校などで野菜の作り方を教えている方を講師として招いて食育の活動について講演していただいている

水谷委員：出前講話のテーマはどのようなものか

赤石主査：保健師や栄養士が出向き依頼を受けたテーマに沿って行っている

高齢者クラブからの依頼のテーマとして多いのはうつ予防、低栄養、E-リズムである。

阿部委員：江別で肺結核の患者さんはいるか

一色委員：結核は昭和の時代からどんどん減少していったが、先進国から戻ってくる人がもってくる。罹患する方には色々な年代の方がいる。BCGは子どもを守るために接種する。罹患者は管内で50名程度。

阿部委員：がん、精神病に重視しているが、結核などでいろいろな人が亡くなっているので、結核の恐ろしさをもう少し認知度をあげてほしい。

尾澤委員：高齢者において咀嚼器官を活かした認知症予防を行っていると思うが、入れ歯が合わず使わない人が多い。歯を使うことで脳を活性化をさせる。入れ歯で噛むのと自分の歯で噛むのでは違うか。

菅原委員：入れ歯は自分の歯でかむのとちがうため、慣れない人もいる。自分の歯でかむことで認知症予防になるし、難聴も予防できる。あごの関節は耳元にあり、聴覚の神経が圧迫され難聴になる、それから認知症につながる。歯をなくしたくないが、なくなった場合は入れ歯しかない。保険外ではインプラントもあるが、万人が受けられるものでもないので、今の段階では入れ歯しかない。結局のところなれないのは、難しいところ。やっぱり入れてられない人が多い。入れ歯が一生使えるわけでもないし年齢とともに適応能力がなくなる。食べれなくなると全身的に健康ではなくなる。自分の口で接種することが健康づくりに繋がるのではないかと思っている。また食生活の好みにより、入れ歯の周期も変わってくる。

(3) の質疑応答・意見等

特になし